C・S 津屋崎中学校
学 校 通 信
No.4
平成30年9月7日
文責　校長　花田　武美

全国学力・学習状況調査結果について

第3学年を対象に、平成30年 4 月17日（火）に実施された全国学力・学習状況調査（国語 A・B、数学 A・B、理科、生徒質問紙）をお知らせします。また、この調査結果をもとに本校教育の成果と課題を分析し、今後の改善・充実のための取組をお知らせいたします。本年度は第1・2学年を対象とした福岡県学力検査の結果は後日お知らせします。

1　全国学力・学習状況調査とは

【　調査の目的　】

◇　全国学力・学習状況調査

①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

②そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

③学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

【　調査の内容　】

実施学年	調査内容・問題の類型	
第３学年	国語 A 数学 A 理科 A	基本的な知識理解を問う問題。設問は、選択式や短答式が多い。
	国語 B 数学 B 理科 B	知識を活用する力（応用力や表現力等）を問う問題。文章や表、グラフ等を見て答える記述式の設問が多い。
	生徒質問紙	学校や家庭での生活の様子や国語・数学の興味関心等を選択式で問うアンケート。

※理科は A・B 一体的に出題されています。

以上の目的と内容を踏まえ、本校では学力状況調査の結果を次のようにとらえています。

調査の結果は、生徒が身につけるべき学力の一部であることから、単に、正答率に注視することで終わるのではなく、現状の分析と今後の取組、課題を解消するための授業指導技術の向上の大切な資料として活用します。

また、学校だけの成果や課題で完結するのではなく、コミュニティ・スクールの強みを生かし、学校・家庭・地域の三者が協働して子ども達の学力向上に取り組んでいきます。

2　平均正答率の分析と改善策

（1）全体として

国語 A･B と理科 B については、全国の平均正答率とほぼ同じでしたが、数学 B については、やや下回っており、数学 A と理科 A については下回っていました。昨年度の県学力調査（現在の3年生）の結果と比較すると国語・数学とも伸びており、県平均との差を縮めることができていました。国語においては A･B とも全国とは同じような差でしたが、数学 B･理科 B「活用する力を問う」問題より数学 A･理科 A「基本的な知識を問う」問題の方が全国との差が大きくなっていました。また、各教科、問題とも正誤に関係なく解答しており、無解答の割合がとても低いことから、間違いを恐れず自分で考え、答えを出そうとする生徒が多いことが分かりました。

（2）各教科として

国語	分析	【強　み】 正答率が高かったのは、文章の展開に即して情報を整理し，内容を捉える力や話合いの話題や方向を捉えて的確に話す力です。また、漢字を正確に書きとる力、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す力も全国の平均正答率を上回ることができています。選択肢の問題について、無解答の生徒はほぼゼロであり、選択肢のわずかな違いを、誠実に読み取ろうとしています。 【課　題】 書いた文章を読み返し，伝えたい内容が十分に表されているかを検討する力や、目的に応じて文の成分の順序や照応，構成を考えて適切な文を書く力に課題があります。「書く」「話す」内容を授業の中で、ていねいに取り上げることが必要です。また、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す力を高める工夫を行うことが必要です。
	継続内容と改善点	○　現在取り組んでいる漢字や語句を中心とした小テストを今後も継続して行うことで，家庭学習の習慣化とともに，基礎・基本のさらなる定着を図っていきます。 ○　書くことの領域において，伝えたい事実や事柄を相手に分かりやすく表現することに課題が見られました。そこで，課題作文の演習問題に取り組む時間を増やし，条件に沿って根拠を明らかにして表現する活動を通して，自分の考えを持ち，的確に表現する力を伸ばしていきます。また，書いた文章をお互いに交流し，アドバイスをすることで，人に分かりやすく伝える力を身につけさせます。 ○　語句の意味を調べたり，短作文やスピーチをお互いに交流する中で適切な使い方を指摘しあったりする活動を通して，多様な語句の意味を理解し，場面に応じて適切に使うことができる力を養っていきます。
数学	分析	【強　み】 全国の平均正答率と比較すると、図形分野では四角形の回転移動や三角形の合同条件を求める図形の問題で正答率が上回っていることから、きちんと理解できていることが分かります。 また、確率の意味についての問題や表などを利用した確率を求める問題が全国の平均正答率を上回っていることから、確率の求め方だけでなく、きちんと意味まで理解していることが分かります。 【課　題】 全国の平均正答率と比較すると、数学Ａでは計算分野や比例・反比例・関数などのグラフを利用した問題、数学 B では資料の活用分野に課題があります。また、記述問題においては、記述は行っていますが、きちんと筋道を立てて数学的に説明できている生徒が少ないことが課題です。
	継続内容と改善点	○　1、2年生の基礎的・基本的な内容の5問程度の計算ドリルを帰りの学習で毎日取り組んでいる。この取り組みを継続することで定着をはかっていきます。 ○　数と式の単元では、数量関係を正しくとらえ、立式することや必要に応じて等式を変形することができるように指導していきます。 ○　関数の単元では、2つの数量関係を正しく把握し、2つの数量の変化や対応の特徴を表、グラフ、式を用いて表現できるよう指導していきます。 ○　数学Ｂに関する問題では、構想を立て根拠を明確にして筋道を立てて理由を説明する活動の充実を図っていきます。

理科	分析	【強み】 理科 B の正答率は県の平均正答率と同じです。特に科学的に探究する学習場面において，問題解決の技能を問う問題や自然の事物・現象を実験装置や操作に対応させ知識・技能、活用を問う問題は全国の平均正答率を上回っています。また、探究の過程を振り返り、アルミニウムは水の温度変化に関係していることについて新たな疑問を問う問題については、全国の平均正答率よりも大きく上回ることができています。実験・観察をもとに探求する学習を積み上げた結果と考えています。 【課題】 理科 A については、県の平均正答率を下回っている問題が多くあります。特に、第 1 分野では、ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘する基本的な技能を問う問題やオームの法則を使って，抵抗の値を求める問題に課題があります。また、第 2 分野では、植物の蒸散に関する知識を問う問題や神経系の働きについての知識や地震の揺れに関する知識を問う問題に課題があります。
	継続内容と改善点	○ 関心・意欲を大切にしながら、自然の事物・現象の中に問題を見いだして課題を設定し、目的意識や見通しをもって観察・実験を行い、得られた結果を分析して考察する「科学的に探究する学習活動」を進めていきます。 ○ 「知識」に関する問題の理解を深めるために、授業の導入場面やまとめの部分で基礎的・基本的な知識・技能が確実に身につくように、反復して学習を進めていきます。 ○ 課題が見られた第 1 分野や第2分野の問題は再度授業で取り上げ、確実に理解させます。 ○ 地震に関する知識を身に付けることは、自他の安全や生命を守り、防災や減災に生かすうえで大切であることから、再度、地震に関する知識が活用される場面を設定し、定着をはかっていきます。

3 生徒質問紙（アンケート）から

アンケート結果の一部を取り出して、お知らせいたします。
※△：県・全国より高い項目　▼：県・全国より低い項目

質　問　項　目	本校（%）	県（%）	全国（%）
① 自分にはよいところがあると思いますか。	△80.2	79.0	78.8
② 学校の規則を守っていますか。	△95.9	95.0	95.1
③ 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。	△24.8	21.2	22.2
④ 将来の夢や目標を持っていますか。	▼69.4	73.3	72.4
⑤ 授業や課外活動で地域の事を調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。	△71.1	65.6	68.7
⑥ 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。	△85.1	72.4	73.6
⑦ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。	▼36.4	37.0	38.7
⑧ 理科の授業では、理科室で観察・実験を週 1 回以上行いましたか。	△66.1	27.6	40.7
⑨ 数学で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	△91.8	76.8	80.6
⑩ 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。	△73.5	70.3	70.3
⑪ 生徒で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	▼67.7	76.0	76.3
⑫ 平日、学校の授業以外で<u>1時間</u>以上勉強していますか。	▼53.7	64.9	70.6
⑬ 家で学校の宿題をしていますか。	△96.6	92.8	91.6
⑭ 家で学校の授業の予習・復習をしていますか。	△59.5	51.5	55.2
⑮ 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	▼42.2	49.0	52.1
⑯ 平日、授業以外で 1 日<u>1時間</u>以上読書をしますか。	△17.3	14.1	14.8

≪将来について≫
○ ①～④から自分のよさを認め、きまりを守る生徒が多い。将来に向けては、理科や科学技術に関わる職業に就きたい生徒は多くいるが、将来の夢や目標を十分持てていない生徒が多くいることが分かります。
≪地域との関係について≫
○ ⑤～⑦から、地域のひと・もの・ことを授業で活用したり、地域のボランティア活動には多くの生徒が参加したりしていますが、地域や社会をよくするために考えることは十分できていないことがわかります。
≪授業について≫
○ ⑧～⑪から、体験を重視し理科の実験・観察をよく行っており、数学ではノートに考え方を書いたり、諦めずにいろいろな方法を考えたりができているが、考えを深め広げる話し合い活動がやや不十分であることが分かります。
≪家庭学習について≫
○ ⑫～⑮から、家庭での学習時間は少なく、その時間で行っている内容は宿題や予習・復習をよく行っているが、自分で計画を立てて勉強することは不十分であることが分かります。
○ ⑯から、朝読書と読み聞かせを行っていることから、1 日1時間以上読書を行う生徒が多いことが分かります。

4 今後の取組について

「学び合い活動」 を行っている生徒

1 わかる授業をめざした取組

昨年度、9年間の学びで学力を身につけさせるために小学校と連携し、共通の評価項目や授業像（授業の流れ）を決めて学習を行っています。本年度は、授業の中で基礎学力の定着をめざす工夫と言語活動の充実をめざす工夫を行っていきます。具体的には、ドリルや確認テストを実施したり、教え合いや習熟度別学習を行ったりすることで知識や技能の確実な定着を図ります。また、明確な活動の目的をもって「学び合い活動」を行うことで言語活動を充実させ思考力や表現力を伸ばしていきます。

また、全国学力調査の過去問題や県立高校の入試問題から、授業を構想し活用力を身につけるための授業づくりを行い、定期考査で活用力を問う問題を実施します。さらに、毎年行っている生徒による「授業アンケート」の結果を分析し、全体で共有し授業改善を行っていきます。

地域の方から教えてもらっている生徒(補充学習)

2 家庭学習の習慣化と充実

生徒質問紙の結果をみると、家庭学習の習慣化とその内容が課題と考えます。現在行っている自学ノートの取組をさらに充実させていきます。また、各教科における宿題、週末課題の内容も含めて改善を行っていきます。この取組に関しては PTA や小学校とも連携を図っていきたいと考えています。

花火大会後の海岸清掃をしている生徒

3 地域の教育力の充実

地域では、中学生のボランティア活動の場が年々増え、中学生の力が地域づくりに役立つと期待されています。昨年度より始まった地域連携コーディネーター制度も 2 年目を迎え、学校運営協議会を中心に、地域と連携した取組の充実を図っていきます。また、地域のボランティアに参加していただいている長期休業中や定期考査前の補充学習を充実させることと時間外学習（学校・家庭・地域で行う授業以外の学習）の在り方をこれから検討していきたいと考えています。

小学生の学習支援をしている生徒(津屋崎小)

宮司コミセン夏祭りで出店を手伝う生徒